

背景

- 国内外を問わず、係船作業中の事故が多発しており、国際的な安全対策の必要性が叫ばれていた。
- IMOにおいて、欧州等が船上係船設備の配置改善を提案する一方、日本は国内の事故を受け、係船索の保守交換ガイドラインを提案。
- 日本は、会期間通信部会 (CG) のコーディネータや小委員会での作業部会 (WG) 議長を務めるなど本件の議論をリード。



(日本での事故例)

- 2009年3月、神戸港において破断した係船索が港湾作業員2名にあたり、死亡。
- 原因は、係船索の劣化及び索の摩耗であった。

IMOにおける審議動向

- 船舶設計建造小委員会第6回会合 (SDC 6) (2019年2月)・・・以下の内容を含む SOLAS条約II-1章3-8規則改正案 (国際航海に従事する船舶に適用) 及び関連するガイドライン/ガイダンス案に合意。
 - 現存船を含む全ての船舶に対しては、係船設備 (索、ウィンチ、ボラード等) の点検・保守を行うことを義務化 (点検・保守ガイドラインを参照)
 - 3,000総トン以上の船舶に対しては、人間工学や使い易さを考慮して係船設備の配置設計・選定を行うことを義務化 (配置設計・選定ガイドラインを参照)
 - 係船設備の強度算出方法に関するガイダンスの一部見直し
- MSC 101 (2019年6月)・・・上記SOLAS条約改正案を承認。
- MSC 102 (2020年5月開催予定)・・・上記SOLAS条約改正案を採択予定 (最短で2024年1月1日に発効する見込み)。

※ 上記記述は条約改正 (案) 及び関連するガイドライン/ガイダンス (案) の現時点での概要であり、最終的な規制内容については今後採択される条約改正等の本文を参照のこと

参考

- SDC 6において、これまでの日本の経験に基づいて作成した船員や陸上作業員向けの「安全な係船作業の手引き」を各国に向けて紹介した。(別添参照)

GUIDE FOR SAFE MOORING OPERATION

安全な係船作業のための手引き

**EFFORTS TOWARD THE ESTABLISHMENT OF APPROPRIATE MEASURES
OF MAINTENANCE AND INSPECTION FOR MOORING LINES**

係船索の保守・点検のための適切な措置の確立に向けた取り組み

Contents

目次

- 1 Introduction
序章
 - 2 Degradation factors of mooring lines
係船索の劣化原因
 - 3 Role of mooring lines
係船索の役割
 - 4 Inspection of mooring lines
係船索の点検
 - 5 Standards of Disposal and Valuation of mooring lines
係船索の廃棄基準及び評価基準
 - 6 Good practice about mooring operations
係船作業に関するグッドプラクティス
 - 7 Storage of mooring lines
係船索の保管
-
- Appendix 1 Sample form of record of inspection of ropes
索の点検記録のサンプルフォーム
 - Appendix 2 Sample of checklist for safe mooring operations regarding mooring lines
係船索に関する安全係船作業のためのチェックリストのサンプル
 - Appendix 3 Sample of checklist for safe mooring operations
regarding mooring equipment
係船設備に関する安全係船作業のためのチェックリストのサンプル
 - Appendix 4 Sample of checklist for storage of mooring lines
係船索の保管のためのチェックリストのサンプル